

November

京都教師塾通信
No.3

令和2年11月14日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第15期
「京都教師塾」

第1回教育実践特別公開講座 講師:京都市教育相談総合センター 池田 忠 参与 「子どものいのちを守りきるための教師の責務」



教育実践特別公開講座は、今日的な教育課題についての理解を深めるための講座です。この講座は広く一般の方にも公開し、京都市の教員採用内定者の研修にも位置付けています。

今回は、京都市教育相談総合センターの池田忠参与に、児童・生徒の現状やこれからの生徒指導等についてお話しいただきました。ケンカの聞き取り指導や家庭での連絡など、学校現場での様々な事例をもとに考察する時間があり、これからの生徒指導で大切にしたいことを具体的に教えてくださいました。最後に、「子ども理解とは子どもへの指導・支援・かわりから出来ていくものであり、子どもを信頼することから生徒指導は始まる」という、大事なメッセージを伝えてくださいました。

「いじめはどの学校にも、どの子どもにも起こり得る」ことであり、だからこそ教師は常にアンテナを張り感度を高くしておくことが大切です。今のうちから実際に担任になった時のことを想定し、胸に留めておきたいものです。



第2回京都市教育学講座 講師:若手教員6名 「教師の喜びと厳しさ」



午後からは、京都市の小学校、中学校、高等学校、総合支援学校で、また養護教諭、栄養教諭として活躍されている先輩6名に来てもらい、現場の生の声を届けていただきました。

「教師にとって大切だと思うことは？」の問いに、小学校の先生は「一人一人の子どもと積極的に関わること」、中学校の先生は「人と話す力、コミュニケーション能力」、高等学校の先生は「生徒たちにどのような大人になって欲しいかを明確に持つこと」を伝えてくださいました。また、総合支援学校の先生は「日々、自分を省みること」、養護の先生は「連携する力」、栄養の先生は「報告・連絡・相談をすること」とおっしゃっていました。困難・不安と感じていることや、それらをどう乗り越えようとしているか等の具体を話してくださり、現場の様



2組

子が捉えやすかったのではないのでしょうか。

分散会では「あなたのなりたい教師像は？」をテーマに、自分が児童・生徒だった時のエピソードを交えながら、また、今感じている不安や悩みなども出し合いながら、なりたい教師像について話し合いました。各分散会場をまわってくださったパネリストの先生に積極的に質問する姿も見られました。

仲間のレポートに学ぶ



4 組

第2回京都市教育学講座【講義】

「教師の喜びと厳しさ」を受講して



本日の全体会では、実際に現場で活躍されている新人の先生方のお話を聞くことができ、自身の学びにつながったと思います。具体的には、報・連・相の大切さや、本から得た知識だけではなく、実践からも学んでいくことの大切さです。養護教諭は単数配置が多いですが、子どもの来室状況や実際の様子を保健室の中から見ただけではなく、クラスでの様子や休み時間の過ごし方、持病や発達に関する事など、様々な情報を収集し、同時に共有していくことが、子どもにとって安心・安全な学校生活を送るために必要な取組だと感じました。多職種と連携する際のコーディネーター的役割が、今の養護教諭に求められているので、小さいことでも報・連・相を行うことを日頃から意識したいと思いました。また、本やインターネットに載っている文献から知識を得ることも大切ですが、目の前にいる子ども本人と、その周りの方々から得られる知識、気づきも大切にしていきたいと思いました。

今回の講座を受けて、私が今後更に学びたいと思うのは、他者との関わりです。先輩の方から子どもまで、様々な年代、経験、考えを持った方と関わることで、接し方を学んだり、自分の引き出しを広げたりして、将来子どもたちと関わる中でいかすことができると感じました。そして、その関わりの中で、目の前にいる方を一人の人間として尊重し、認めていく姿勢を更に学びたいと思います。子どもに「この先生なら大丈夫」と思ってもらえるのはもちろんですが、保護者の方にもそう思ってもらえるよう、様々な方との接し方を伸ばしていきたいです。

現職の身近な先生6人からの生の声から、たくさんの学びがありましたね。校種・職種を問わず、人としての学び方、引き出しの増やし方がとても参考になったと思います。このレポートも、今後の学びや振り返りに役立つ1ページになっていますね。

養護教諭は一人での配置が多いですが、決して一人ではありません。「コーディネーター的役割」としての気づきはとても大事な意識です。子どもが保健室に来室するのは結果としての姿。「なぜそのような状況になったのか」が大切です。そのためには、いろいろな情報、いきさつ等々、家庭環境、家庭背景までもが関係してきます。学校全体、全教職員でひとりひとりの子どもを大切に育てていくためにも役割の自覚と責任をもてるようにもなって欲しいです。



6 組



8 組



10 組



補講(11/4)の様子



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
学びの力を発揮し、京都市民意識を実践しよう!

